

令和6年度（2024年度）第1回
北海道麻しん及び風しん対策専門会議
議事概要

令和6年度（2024年度）第1回
北海道麻しん及び風しん対策専門会議
議事次第

日時：令和6年5月30日（木）10:30～

場所：Zoom 開催（感染症対策課）

1. 開会
2. 議事
 - （1）北海道感染症予防計画を踏まえた対策の推進について
 - （2）その他
3. 閉会

- 事務局 定刻となりましたので、ただいまから、令和6年度第1回北海道麻疹及び風疹対策専門会議を開催いたします。委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。それでは、開催に当たりまして、感染症対策課医療体制担当課長の野田よりご挨拶を申し上げます。
- 野田課長 開催にあたりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。三戸座長を初め、委員の皆様方におかれましては、ご多用中にもかかわらずご参集いただきまして誠にありがとうございます。また、平素より、感染症対策の推進に格別のご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。麻疹風疹につきましては、感染力が強く、感受性者が一定数存在する中、流行した場合に、社会に与える影響等に鑑みると、行政関係者や医療関係者はもちろんのこと、道民一人一人がその要望に積極的に取り組んでいくことが極めて重要と考えております。道では、本年3月に「北海道感染症予防計画」を策定したところでございまして、この計画に基づき、本専門会議の場を通じて専門的に審議し、道民に対する知識の普及や、発生の予防及び、まん延の防止など、対策を総合的に推進することとしてございます。委員の皆様におかれましては、麻疹風疹対策の更なる推進に向け、活発なご議論をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。
- 事務局 本日の資料でございしますが、議事次第の他に資料1から3、それから参考資料1から7を配付させていただいているところでございます。もし不足等ございましたら、事務局までお申し付けください。大丈夫でしょうか。それでは、本専門会議の三戸座長に以後の進行をお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 三戸座長 昨年9月以来の開催でございしますが、本日もよろしくお願いしたいと思います。早速議事に入りたいと思います。まず初めに、議事の両括弧1、北海道感染症の予防計画を踏まえた対策の推進について、事務局の方からご説明よろしく願いいたします。
- 事務局 はい。事務局でございまして、資料1に基づきまして、麻疹及び風疹の現状及び対策についてご説明をさせていただきます。
- 【説明内容（省略）】
- 事務局からの説明は以上でございまして。
- 三戸座長 事務局から説明がありました通り、対策には予防接種が大切で、95%以上の方が接種することを達成目標として広報しております。感染者数に関しましては、北海道での発生がないということから、対策はある程度進んでことと思っておりますが、ご意見ご質問がございましたら先生方、よろしくお願い申し上げます。
- 山野委員 事務局からの説明等にもありましたように、予防が最善の対策であり、ワクチンの接種率や抗体保有率のアップが不可欠であると、私どもも十分認識しているところであります。それに加えまして、麻疹に関しては、特にいざ発生した際には、その発端は基本的に輸入例であったり持ち込み例だと認識しておりますので、それが例えば旅行者であった場合には、移動して歩いたり、公共交通機関を利用したりするため、検出した医療機関や管轄の保健所エリアにとどまらない広域の対応が必要になると考えられます。従いまして、迅速な情報共有システムによるルールなどを、もっと拡充発展させられるとよろしいのではと思います。検出した時点で、道内全域に検出例が周知されることの方がもっと進むと、対応が後手に回らなくて済むのではないかと感じております。
- 事務局 麻疹及び風疹については、感染力が非常に強いということがございますので、初動対応をしっかり取っていくということが対策のキーポイントになって参ります。足下、発症例はありませんが、疑い例は、ガイドラインに基づいて、医療機関から最寄りの保健所、保健所から我々に情報が

入ってきております。道立保健所だけではなく、保健所設置市とも連携をして、各公共交通機関の利用状況や接触者数など、行動歴を事前に聞き取り、陽性が確定する前から逐次情報をとって、対策を講じているところがございます。引き続き、麻しんの陽性例が発症した時にも、速やかな対応できるように、万全な体制をとって参りたいと考えております。

○山口委員 報告を含めて3点お話をします。1点目は、MRワクチンについてであります。北海道の接種率は90%切っており、これを95%に上げることはとても大事であり、そのためにもしっかり周知なくてはならないと思っております。例えば、今回の会議資料の中に「妊娠前にワクチン接種を受けることなどの注意喚起をする必要がある」とありますが、生ワクチンであることを考えますと、「妊娠2ヶ月以上前」に接種する必要があるため、その期間は避妊が必要であることを明記すべきだと私は考えております。

2点目は、札幌市では、令和5年に麻しんの確定例が1例ありましたが、本人からなかなか回答いただけず調査に非常に苦慮し、感染経路が不明の状況に終わってしまいました。このように、調査に苦慮する事例が特に都市部であることから、調査に強制力のようなものをもたせることを、本当は国に対して望みたいところがあります。

3点目です。令和5年の札幌市における麻しん確定例は1例ですが、調査や検査の結果、届出を取り下げていただいた疑い事例が8例ありました。また、令和6年に入ってから、2例の疑い事例が発生しています。このように、診察を行う医療機関の先生方に、診断疑いであっても情報いただけるようにしっかり取り組みますと、たくさん事例が集まってくると思っております。

○事務局 先ほど妊娠の部分の記載については、ご指摘いただきましたように、正確性を期するという観点から、表現を書き加えさせていただきたいと思っております。また、事例のキャッチの部分については、先生のおっしゃる通りでございまして、ガイドラインに基づく対応というものがしっかり医療機関の皆様にも浸透して、早い段階でキャッチできているという部分がございますので、浸透という部分を深めながら、さらに、キャッチをできるような体制をしっかりと作って参りたいと考えております。

○高垣委員 まずワクチンの接種率について、今回、全道における第二期の接種率が90%を切ったという状況があり、過去の過去5年間における第二期の接種率をみると、2019年（平成31年）からも91%で、だんだんだんだん低くなっている傾向があります。ワクチン接種は市町村の事業であり、道や道立保健所では、市町村に対し、ワクチン接種の向上について、いろいろ働きかけているところですが、それでも下がってきたという状況を考えると、これまでと同じやり方では、95%を達成する、或いは第二期の接種率を高い率に戻すことは難しいと考えております。そのため、何か新たな取り組みが必要ではないかと考えております。これが1点でございます。

次に予防計画についてです。計画には、各種の対策施策が書かれておりますが、具体的な施策は書き込めていないと思っております。実際、普及啓発とか情報発信については、対象を定めて適切な方法で情報発信を行わないと、うまく情報が伝わらないところがあります。例えば、海外に渡航する人達への注意喚起に関しては、道のホームページに掲載しただけでは見ることはないでしょう。ゆえに、海外渡航者向けにするのであれば、旅行会社のパンフレット、或いはインターネット上のホテルや航空券の申込ページなどの業者さんと連携して、情報発信に取り組まなければならないと思っております。

また、医療や福祉関係の養成学校や大学に在学中の方に対して、注意喚起することも必要ではないかと思っております。

妊娠前のワクチン接種についても、性交渉がある方に対し、関係機関と連携しながら、情報が伝わるようないい方策を考えていかないと、なかなか全体地域全体としての接種率が上がらないのではな

いか思っております。

最後に、道全体のワクチン接種率は第一期 95%。第二期で 90%近くなっていますが、市町村毎にみると、高いところもありますけれども低いところもありますことから、接種率が低いところに対して、その背景とか要因とかを調査して、それに対して何か新たな考え方とか方策というものを考えていかなければいけないのではないかと思います。

- 事務局 計画の書きぶりから、より具体性を持たせて、対策を行っていくことは大変重要なポイントと考えておまして、そこを推進できるよう、努めていきたいと考えております。また、予防接種の必要な対象を絞り、それに合わせて情報発信を行うことは大変重要なポイントでありますので、いろいろな知恵やお声を聞きながら、今後、施策の推進を図ってまいりたいと考えております。
- 辻委員 これまでのお話をお伺いし、高校生に対しては、保健体育の授業等で感染症を取り上げていただけると、予防接種率の向上につなげていけるのではと思いました。
- 事務局 若い世代に対し、麻しん・風しんに留まらず、感染症全般について、深く正しい知識を身につけていただいて、大人になってからも、適切な予防行動をしていただけるようにすることは、重要な論点だと思いますので、感染症対策課としても、教育関係の部署とも連携しながら、今後、施策を具体化して参りたいと考えております。
- 山口委員 高垣先生からのお話もありましたが、接種率向上の取組例として、札幌市の事例を紹介させていただきます。札幌市は第二期の接種率が 85%であり、北海道全体の 89%よりも低いということで非常に危惧しており、あと 10%くらい接種率を向上させるため、札幌市医師会様と協力し、就学の 1 年前の子ども向けに送っている検診等に関する通知の中に、MR ワクチンの案内を同封する取組を昨年から行っており、今後の向上を期待して、推移を観察しているところです。
- 三戸座長 貴重な意見をたくさんいただきましてどうもありがとうございます。ご意見いただきましたことを踏まえながら、事務局におかれましては、麻しん及び風しん対策を進めていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。それでは、本日はこれで終了させていただきたいと思います。委員の先生方におかれましては、ご多用のところ、ご参加いただきましてどうもありがとうございました。これにて終了させていただきます。ありがとうございます。